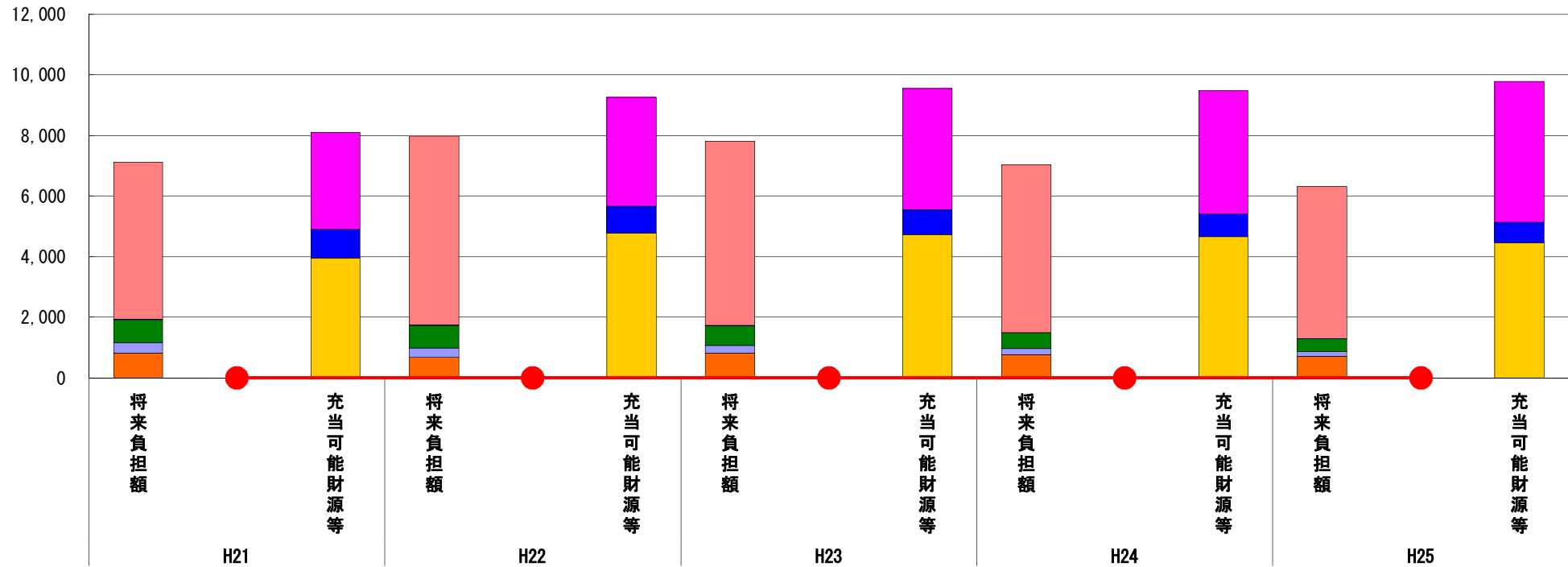


(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

北海道幌延町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		5,172	6,235	6,072	5,526	5,014
	債務負担行為に基づく支出予定額		21	15	10	5	-
	公営企業債等繰入見込額		757	749	654	522	422
	組合等負担等見込額		348	301	259	210	161
	退職手当負担見込額		811	682	811	767	713
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		3,185	3,585	3,997	4,066	4,657
	充当可能特定歳入		952	886	820	751	682
	基準財政需要額算入見込額		3,954	4,783	4,728	4,667	4,450
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 981	▲ 1,273	▲ 1,738	▲ 2,454	▲ 3,478

分析欄

平成21年度までの将来負担額は70億円程度で推移してきたが、平成22年度では、障害者支援施設民営化による北星園会計閉鎖に伴い、退職手当負担見込額が減少したものの、平成22・23年度では、近年の大規模な普通建設事業実施に係る地方債発行が多額となり、80億円程度までに増加した。

平成24・25年度では、公債費最短償還による効果で地方債残高が減少し、将来負担額が減少した。

今後も、大型事業が想定され、将来負担額の上下動が予想されるものの、発行地方債の多くが後年度交付税算入額の高いものばかりであり、また、基金残高も伸張し、充当可能特定財源が増加していることから、それほど懸念すべき状況ではないものと思える。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。